



赤塚山公園

所在地：愛知県豊川市市田町地内  
敷地面積：25.09ha  
開園年月：平成5年（1993年）7月  
公園種別：総合公園  
区域区分：市街化調整区域



概要

愛知県豊川市にある約25haの「赤塚山公園」は、市制施行50周年の記念事業として平成5年に開園し、豊川市が管理する唯一の総合公園です。豊川稲荷に次ぐ観光資源でもあることから、豊川市観光協会では認知度向上として、平成30年3月に「とよかわブランド」と認定し、PRすることで、産業振興、観光推進と地域活性化を図るなど、豊川市にとっては、定住施策だけでなく、交流施策にも寄与する施設となっています。しかしながら、開園後25年以上が経ち、人口減少、少子高齢化社会の中で、利用者の年齢層が変化していることや、公園施設の老朽化などにより、公園の魅力低下に繋がることが懸念されることから、令和5年度の開園30周年リニューアルに向けて、よりストック効果を高めることを重視した再整備を着手し、地域資源として磨き上げ、地域連携や公民連携による地域活性化を活かした観光振興の強化を図るとともに、市民ニーズにも対応した施設整備を行いました。

わくわくパークの「大型遊具」



わくわくパーク（旧芝生広場）に、現地に植生するナツミカンをデザインモチーフに、森の中に咲く巨大な花を表現した大型遊具を設置しています。近隣地域にない独創的な形状と機能を兼ね備え、対象年齢ごとの利用を立体的に可能としています。また、周囲に設置される既存のカブトムシ遊具、クワガタ遊具は、地域ボランティアによって塗装され、リニューアルされました。



ボランティア活動の様子

ボランティア活動団体との連携（地域猫活動）



バザー開催による啓発活動

「市民活動団体 エンジェルキャッツ」は、赤塚山公園内の猫たちに、エサやりや日常管理を行っています。猫のエサ、管理費、治療費のための募金活動や、保護猫の里親探しなどの啓発活動を行っています。

地元出身の絵本作家によるアート平板



「中池エリア」と「宮池エリア」を繋ぐ園路『風の散歩道』には、豊川市出身の絵本作家・かべやふうさんの描いたアート平板が設置され、見る楽しみや、自然を感じながら、園内を散策することができます。



風の散歩道で開催した「とよかわ農業市」

地域ボランティアによる塗装

赤塚山公園は、赤塚山を始めとする3つの山と3つの池を含む自然豊かな環境であり、標高差は70m前後、弘法山の頂上部にある展望楼（展望台）からは市内を一望することができます魅力的な場所です。しかしながら、展望楼（展望台）のある弘法山エリアは、車両乗入れが可能な管理用通路がなく、維持管理が困難なため、老朽化が進み公園の魅力低下に繋がることが懸念されていましたが、全国の塗装店により結成されたボランティア団体・塗魂ペインターズが、より魅力的で地域の方から親しまれる憩いの場になることを目的として、展望楼（展望台）の塗装をボランティアで行いました。



着手前の展望楼

塗装された展望楼

ボランティア活動団体との連携（梅園）



赤塚山公園の中池エリアにある「梅園」は、25品種、273本を植栽しています。地元有志でつくる「梅園剪定ボランティアの会」は、来園者に気持ちよく過ごしてもらおうと、梅園の清掃や剪定作業など、梅園の保全活動を行い、梅の花の咲く、毎年2月中旬から3月中旬まで開催する「梅まつり」は、豊川市の観光名所ともなっています。



ニワトリの遊具  
公募により名前決定



ニワトリの遊具「こっこちゃん」

小動物を展示する赤塚山公園「アニアニまある」は、開園した平成5年の2年後にオープンし、同時に作られたのが、「ニワトリの遊具」となります。動物と人の居場所を区切るのではなく、遊び場、動物と人の休息が混在する空間として、雛を抱く格好で座り込んだ巨大なニワトリとして、視覚的に楽しむだけでなく、利用者が童話の世界のような気分、中に潜り込んだり、登ったりする遊具として計画され、現在でも大変人気のある施設です。「アニアニまある」の動物たちには、全て名前が付いていますが、「ニワトリの遊具」は、名前が付いていませんでした。そこで、親しみをもってもらうため、この「ニワトリの遊具」の名前を公募によって決定し、赤塚山公園開園30周年記念式典で発表されました。

民間事業者と連携した飲食物販施設



東三河で初の試みとなる公募設置管理制度（通称Park-PFI）を活用し、公民連携して整備された、飲食物販施設と休養施設があります。休養施設については、豊川市の管理となりますが、飲食物販施設については、最大で整備から20年間の管理運営を、民間事業者が行い、東三河地区のネットワークを活かした、様々な店舗による「食」・「自然」を中心に、豊川市の魅力発信をしています。赤塚山公園内の梅園の収穫時期には、ボランティア団体と連携し、梅を食材にしたジュースやスイーツなども並びます。また、公園再整備によって創出された新たな2つの広場は、それぞれ公募により愛称を決定し、広場の愛称が刻印された案内看板を豊川ライオンズクラブに寄附していただきました。



東三河唯一の淡水魚水族館「ぎょぎょランド」



小学生と協働した生き物の採集

東三河を流れる豊川（とよがわ）にすむ生き物約100種2千匹を、可能な限り生息環境に近づけて展示しています。国の天然記念物と絶滅危惧種に指定されている「ネコギギ」の繁殖に5年連続で成功しています。また、魚の採集や、観察を通して、動植物への愛着や郷土愛を持つこと、自然環境についての知識、理解を深めることを目的として、地元小学校の児童と協働して、二級河川白川で採集した生き物を一部展示しています。

地域ボランティアによる塗装



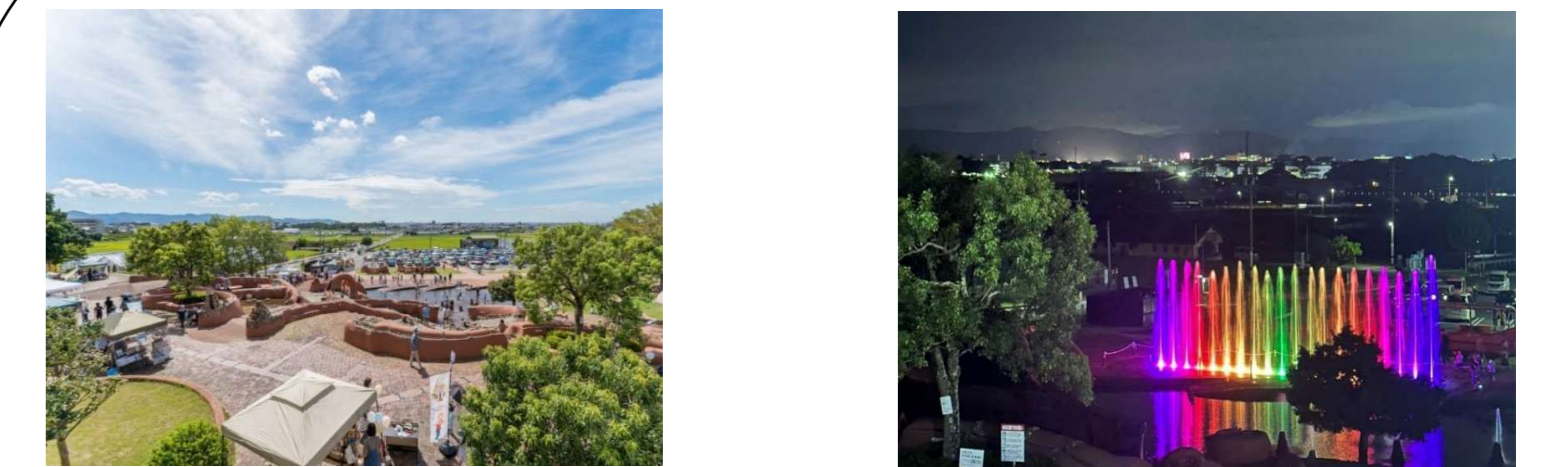
ステージや多目的グラウンドのある「市民のスクエア」では、豊川市に開発工場を構える「PPGジャパン株式会社」と「穂の国まちづくりネットワーク」の協力によるボランティア活動で、30年間手を入れていなかった「市民のスクエア」ステージ裏の塗装を行いました。



着手前のステージ裏

ボランティア活動の様子

再整備された「水の広場」



「水の広場」では、平成5年の開園当初からの「木の根」をモチーフとした意匠は継承し、新たに期待感と高揚感が高まる噴水や、こどもの見守りゾーンを兼ねた休憩スペースを配置しました。これまでの水の動きに「跳ねる」「登る」という水の動きが追加され、気軽に水と触れ合い、安全に遊ぶことができます。また、水の広場の周辺を車両対応の構造にしたことで、地域物産展や民間イベントなどの活用により園内の賑わいが創出されています。